

■岩永三五郎 卓越した種山石工で薩摩藩に招かれ、日本一の「西田橋」ほか名橋多数遺し、「通潤橋」に続く中興の祖になった。

いわながさんごろう

松平定信引退1793= 肥後国八代郡津手永西野津村で、石工宇七の次男に生まれる。

父から石工としての技術を学び、

肥後石工で最初の石造アーチを架けたという仁平とその弟子達の近くにあつて、架橋技術を学ぶうち、

膝栗毛始・・・1802=9歳:

もと長崎奉行所役人で、アーチ型石橋の虜となってオランダ人に接近、奉行所から追われて種山村に亡命してきた藤原林七が、

いづノ来航・1804=12歳: この年、八代に鍛冶屋三橋をつかって種山石工の祖になる。

おそらく「種山石工の祖」藤原林七に弟子入りして、アーチ式石橋技術を伝授され、

コノブニ拿捕 1811=18歳:

林七の娘婿となり、

黒住教・・・1814=21歳: 現存する「鶴ノ瀬碓、糸田碓」で、名が知られ、

杉田玄白没・1817=24歳: 「砥用手永柏川井手で雄亀滝橋に着工、

水野忠成老中1818=25歳: *雄亀滝橋が完成し、柏川井手が全通。感動した上益城郡代の若い井樋方布田保之助と将来の請負を約し、

・・・1820=27歳: 「七百町新地の築造に際し、苗字御免之御惣庄屋直触で、工事中に限って岩永姓を名乗ることが許され、蝦夷地直轄終1821=28歳: 三五郎樋門、

シボト鳴滝塾1824=31歳: 上益城郡六嘉堰樋門を築造、

シボト事件・1828=35歳:

シボト追放・1829=36歳:

富籤流行・・・1830=37歳: 鑑内橋、鑑内橋。*七百町新地工事竣工し、その功績で当時としては異例の苗字を許される。

富籤三十六景1831=38歳: 「矢部手永で大洪水が起こると、その復旧のため、担当の布田保之助から招聘され、

鼠小僧磔・・・1832=39歳: 「男成川笹原溪谷に肥後最大となる眼鏡橋を完成、その恩恵に感謝した村民らに聖橋と名づけられる。

天保大飢饉始1833=40歳: 下馬尾川眼鏡橋、

高島砲術・・・1834=41歳: 財政改革にほぼ成功し、甲突川などの大洪水で惨憺たる被害に、本格的に土木工事に着手しようとした「薩摩藩家老調所広郷から、海老原清熙を介して、熊本藩に派遣依頼があり、韋北郡二見で次々石橋を、君ヶ淵眼鏡橋・新免眼鏡橋・大手平眼鏡橋から、

大塩平八郎乱1837=44歳:

適塾ホブシ・1838=45歳: 八代郡二見の松橋など「完成させた後、

蛮社の獄・・・1839=46歳: *八代郡代に使われた大工頭阿蘇鉄矢のもと、郡代奉行見習となり、野津石工、種山石工など数十名をつれて薩藩に入り、海老原清熙の全面的信頼を得、小敷に弱かったため、計算、測量は阿蘇鉄矢にして貰いながら、土木事業全般の指揮、設計、監理、指導を行って行く。

勧進帳初演・1840=47歳: 孝行橋・行屋下橋・蛭子下橋・潮見橋・境橋・大手橋・山下橋、堀之面5石橋、祇園ノ洲埋立も行い、

天保改革始・1841=48歳: 三五郎波止場新橋・吉野橋・殿様橋、

天保改革弾圧1842=49歳: 永安橋(抱真橋)・戸柱橋・黒葛原橋・一ツ橋・大乘院橋・稲荷橋、稲荷川改修・甲突川改修・川内川開削、

順天堂始・・・1843=50歳: 東市来補田堰・神子川さらえ(良眼坊)・新上橋に着手、

天保改革終・1844=51歳: 妹背橋に着手。加世田大井手堰、

阿部正弘首座1845=52歳: 湊橋・二月田橋・五間橋・新上橋が完成、

孝明天皇・・・1846=53歳: 妹背橋竣工。仏性橋・水ノ手橋・新波止場、「日本一の名橋西田橋、

・・・1847=54歳: 高麗橋留入、

・・・1848=55歳: めくみ橋・武之橋・河頭太鼓橋・上原橋など、「石造アーチ橋はじめ干拓、埋立、治水、排水など多方面で活躍したが、密貿易の発覚した調所が自刃して保護者を失うも、海老原から事業継続を要求され、石工大半は帰国させ、自らは残って取組むうち、

北斎没・・・1849=56歳: *海老原も失脚、地元の石工らを用い、秘伝・奥もさらけだして、洗川落・八間川堤防工事に続く、玉江橋・江ノ口橋を完成させたのを最後に、逃亡を企て、逆に薩摩藩の護衛を受けて、密かに帰郷し、

尊徳報徳論・1851=58歳: 東光寺に環龍物を寄付した後、野津手永鏡町村で、「没した。